

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 8 年度 第 1 回相模原市発達障害者支援地域協議会		
事務局 (担当課)		陽光園 療育相談室 電話 0 4 2 - 7 5 6 - 8 4 3 5 (直通)		
開催日時		令和 8 年 7 月 1 5 日 (水) 1 5 時 1 5 分～1 7 時 0 0 分		
開催場所		相模原市立療育センター陽光園 マルチホール		
出席者	委 員	2 0 人 (別紙のとおり)		
	その他	3 人 (川畑学齢期部会長、地域支援マネジャー 2 名)		
	事務局	1 1 人 (陽光園所長、発達障害支援センター所長、療育相談室長、他 8 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 令和 8 年度発達障害者支援地域協議会について 2 議題 (1) 発達障害支援事業について ア 療育相談室 (ア) 令和 7 年度実績について (イ) 令和 8 年度事業計画について イ 発達障害支援センター (ア) 令和 7 年度実績について (イ) 令和 8 年度事業計画について (2) 部会の取り組みについて ア 今年度の方針について 3 その他 (1) 療育センター再整備計画の見直しについて (2) 光が丘地区学校跡施設 (旧青葉小学校) 利活用基本計画について (3) 委員からお知らせ		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

- 1 令和8年度発達障害者支援地域協議会について（資料1）
事務局より資料に基づき説明を行った。

2 議題

日戸会長の進行により議事が進められた

（1）市の発達障害支援事業について

ア療育相談室（資料2～資料2-4）

（ア）令和7年度実績について

（イ）令和8年度事業計画について

事務局より令和8年度の主な取り組みについてスライドを用いて説明を行った。

- ・わが子の発達がちょっと気になったときのハンドブック一部改訂について
- ・機関コンサルテーション 名称を巡回訪問から園サポート相談に変更
- ・学校へつなぐサポート（就学移行支援事業）に関するアンケートについて
- ・かかりつけ医等発達障害対応力向上研修について
- ・支援を受けるために必要な書類の簡素化について

（富川副会長）

大きな変化や新しい動きがみられる。巡回訪問の名称は変更され、わかりやすくなった。書類の簡素化についても、きちんと療育相談班で評価したのであれば、意見書作成をすべて医師がおこなわなくてもよくなったことはとてもよい動きだと思う。かかりつけ医等発達障害対応力向上研修についても、発達のかかりつけ医が増えてくれるのはとてもありがたいことである。

（西村委員）

サービス使うための必要な書類が簡素化されるというのはとてもよいと思うが、受給者証取得のために障害児相談が入ってくるというのが図の中でみられない。セルフプランではなく、相談支援事業所の関わりもこの図にはいってくとよりよいのではと感じた。

（南湖委員）

市内の障害児はセルフプランが増えているという実態はかわらない。書類が簡素化することで早期から支援が受けられる流れになったのはとても重要。そこに障害児相談をどうリンクさせていくかはまた別のところで議論をしていかないといけない。

（日戸会長）

相模原市のセルフプラン率はどれぐらいか。

(奈良委員)

大まかではあるが、児童は約6割、成人は約3割。課題であると感じている。

(日戸会長)

この新しい制度でセルフプラン率が少し下がると期待していいのだろうか

(事務局)

この仕組みとセルフプラン率はリンクしていないのではないかと考えている。そのため、(支援を受けるために必要な)書類が簡素化されたことによりセルフプラン率がさがるとはいいがたいと思っている。

イ発達障害支援センター(資料3～資料3-3)

(ア) 令和7年度実績について

(イ) 令和8年度事業計画について

ぞっこん相模原視聴。事務局より資料を用いて説明を行った。

(西村委員)

発達障害支援センター8年度事業計画のところで、強度行動障害支援者養成研修の関りについて記載がないためこれからの方向性も踏まえて教えてほしい。国では基礎研修、実践研修、その上に中核的人材養成研修、広域的人材の役割というもの、強度行動障害養成研修の枠組みとして作られている。その中で、発達障害支援センター、また一般的には発達障害者地域支援マネージャーも含まれてくるため療育相談室も加わるかもしれないが、相模原市としての研修体系への関りがどのように事業計画の中にはいつてくるのか教えていただきたい。

(事務局)

強度行動障害の対応については、ここ数年はファシリテーター、見学など色々な立場で、基礎研修に参加をさせてもらっている。今年度も職員1名参加予定で一緒に進めさせてもらっている。市全体の動きとしてはここまで下りてきてはいないが、計画の中で位置づけをしていくことになるのではと考えている。これから市の体制をどうしていくのかという中で、発達障害支援センターや療育相談室の役割が決まっていくのではと考えている。

(西村委員)

せっかくなので事業計画の中にいれてほしいと思っている。今後、実践研修もすると聞いている。実践への関りであったり研修体系を相模原の中で整理する中に発達障害支援センターが加わってくれているというのは一般市民としてもとても心強い。

(2) 部会の取り組みについて(資料4～資料4-1)

ア今年度の方針について

事務局より報告を行った。

(日戸会長)

部会についても大きな変更がある。これまでの流れを踏まえてライフステージを切り取って検討するのではなく、2つのライフステージをくっつけてつなぎも含めて検討をしていくという提案。ワーキングのメンバーは決まっているのか。

(事務局)

検討段階。案としては、ワーキング1では成人期メンバーを中心に学齢期メンバー半分、乳幼児期からオブザーバーで入る形。ワーキング2では、乳幼児期メンバーを中心に学齢期メンバー半分、成人期からオブザーバーが入るという形で3部会の人たちがそれぞれメンバーとして入る構成を考えている。具体的なメンバーはこれから調整。

(日戸会長)

昨年度まで部会のメンバーとして活動をしていた方たちから意見を聞きたいと思う。乳幼児期メンバーだった委員の方からお願いしたい。

(千谷委員)

昨年度までの部会の中でというところでは特にはないが、就学移行支援（学校へつなぐサポート）や就学相談がある中で、今年度から5歳児健診も始まり、親御さんたちは、何をどう利用するのがわが子にとって最適なサポートを得られるのだろうと考え選んでいくことが大変難しくなるのかなと感じている。

(事務局)

5歳児健診も含めてマップについての検討をしていきたいと思う。

(南湖委員)

(児童発達支援センター) いっぱい利用している保護者も、もくもくシートを作って学校へ提出している。個人的にはシートがもう少し見やすくなれば、学校の先生も活用がしやすくなるのではないかと考えている。学校に入って、学年が替わって先生が替わると一からのスタートになると保護者から聞いている。学校の中でどうやって引き継がれていくのかもみていく必要があるのかもしれない。見た目の書式のところと仕組みのところと両サイドからみていく必要があるのではと感じている。

(西内委員)

マップの見直しを進めるのは賛成。12年前は先生方の中でマップの認知度低かったが、今はマップと言ったら「もくもくシート」を指すことを先生方もわかっている。認知が進んだことで（マップの）提出数がとても多くなり、ひとつの学校にたくさん提出されるようになった。そのため、先生方がすべての保護者と面談をしたり合理的配慮の決定をしたりというところで難しさが生じると捉えている。また、もくもくシートに書いたことは必ずやってくれると思われている保護者の方もい

るため、新しい書式では、あくまでも話し合いの土台となるものであることが伝わるような表現ができればと感じる。南湖委員から話があった学校の中の引継ぎについては、毎年、個別の指導計画等の面談で保護者と合意形成をしていく中で、もくもくシートを活用したり、新たにもくもくシートを書いてもらったりと引継いではいるが、そのあたりの周知も必要と思っている。

(富川副会長)

相模原市は幼児期から学齢期への移行支援がしっかりしている。5 歳児健診というところでは、就学時健診で発達の特徴がある子がいても、そこで話をし始めても入学には間に合わない。5 歳児健診で要フォローとなるであろうと予測しているのは、学年人口の15%から20%ぐらい。そこから療育で改善できるお子さんは多いのではないかと思う。その1年間の準備期間を作るための5歳児健診ではないかと思っている。その過程で、就学相談や就学移行支援にも必要であればつながっていくという想定がある。

(日戸会長)

学齢期から成人期については、相談機関など、どこに何があり何をやっているのかがわかるものということだが、これは昨年度本田先生が話されていた地域ケアパスになるかと思う。昨年度の成人期メンバーの方から意見をいただきたい。

(西村委員)

昨年度は成人期部会部会長として関わっていた。成人期は18歳以降でとにかく長い。成人期特有の課題はたくさんあるが、Q-SACCSで整理した中で、学齢期から成人期に移るところで、相談の主体が家族から本人に移っていく。そのため、本人が使えるケアパスが整理されるとよい、という話がでていた。そのため、ワーキング1では、本人に主体が移っていくというところの整理をしていくのがいいのではないかと思う。

(神谷委員)

小学生の頃はほとんど保護者が相談の主体であるが、今は情報が飛び交っており、中学校に入るところからは、自分が飲んでいる薬の情報を持っていたりもする。それぐらいの時期から本人が自主性をもって外来受診できているのはすごく大事だと感じている。そのあたりがうまく移行できないと、親子間の問題がでやすかったり、処方した薬を飲んでいなかったり、必要な支援を提供してもちゃんと機能していないこともある。大学病院の中でもなるべくお子さんが話せるような工夫もしている。そういう意味では成人期に入ってからではなく、学齢期から本人主体につながるような話をしていけばいいのではないかと思っている。

(日戸会長)

色々な意見を頂き、2つのワーキングで検討していく内容も共有できてきたのではないかと思う。

(富川副会長)

今年度の方向性が明確になった。医療的な話になるが、発達障害児を診る専門医が少ない中で、児童精神科医の負担が非常に大きい。小児科医も気になるお子さんについてわかっているがどうしていけばよいのかわからない状態。3年前からワーキンググループを作り、どうにかして児童精神科の先生方の負担を減らそうと動いている。その中で分かってきたこととしては、精神科でないと処方できない薬以外は開業医も処方できるが、開業医でも処方できる薬のために3か月ごとに受診をするとか、書類のために2年ごとに通うというお子さんで児童精神科の枠がうまってしまっており、新しい患者が受け入れられないということが明確になってきた。そのため、開業医に協力をお願いしている。開業医が受けていけば、児童精神科医の先生方も楽になり、新たな患者を紹介することもできる。また、5歳児健診のワーキングを通して、色々な機関の話を聞き、どこかに丸投げをするのではなく、保育園、医療、福祉の3者が連携をとっていくことで色々なことがよくなっていけばと感じている。

3 その他

(1) 療育センター再整備計画の見直しについて(資料5)

事務局より説明

(2) 光が丘地区学校跡施設(旧青葉小学校)利活用基本計画について(資料6)

事務局より説明

(3) 委員からお知らせ

奈良委員より共にささえあいサポーターについて説明。

(富川副会長)

とてもよい取組。子どもたちにも周知し知ってもらうことで、大きくなってサポーターになる子もいるのでは。成人の集いで配布して周知するのもよいのではないかと思う。

今後の予定

課題別ワーキング

日時：令和8年9月7日(月)午後3時から5時まで

場所：陽光園マルチホール

以 上

令和８年度 相模原市発達障害者支援地域協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属	備 考	出欠席
1	日戸 由刈	相模女子大学 人間心理社会学科	会長	出席
2	富川 盛光	一般社団法人相模原市医師会	副会長	出席
3	神谷 俊介	北里大学病院 精神精神科医		出席
4	柳場 秀雄	相模原市自閉症児・者親の会		出席
5	宮原 美奈	NPO 法人 れんきょう		出席
6	西村 三郎	社会福祉法人風の谷		出席
7	小山 創	相模原市立緑第一障害者地域活動支援センター		出席
8	棚橋 由衣	合同会社 障がい総合支援 ひかり		出席
9	千谷 史子	(社) 東の会 こども広場ワンダーステップ		出席
10	南湖 浩一郎	県央福祉会 児童発達支援センターいっぽ		出席
11	榎本 幸良	障害者支援センター松が丘園 地域支援課		出席
12	関野 浩	相模原公共職業安定所		出席
13	依田 稔	相模原警察署生活安全第二課	代理出席	出席
14	藤原 英明	神奈川県立津久井支援学校		出席
15	菅原 勝	学校教育課		欠席
16	西内 一裕	支援教育課		出席
17	奈良 美幸	高齢・障害者福祉課		出席
18	岸川 康子	精神保健福祉センター		欠席
19	多田隈 美由紀	緑高齢・障害者相談課		出席
20	風間 大祐	保育課		出席
21	山口 幸司	こども家庭課		欠席
22	目代 弥美	緑子育て支援センター		出席
23	藤田 信子	児童相談所		出席

